

令和7年度

試験名:外国学校経験者特別入試

【人間学群

障害科学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文	出題意図と採点の観点 1. 出題意図 (1)障害科学類の主要のテーマの一つである障害のある人への理解と支援について、特に自閉スペクトラム症のある人の事柄に関する文章を問題文として選び、理解力と考察力をみる問題とした。具体的には、自閉スペクトラム症の特性に基づき、ロボットを使用した支援の効果と将来性を解説した文章を取り上げた。 (2)問1は問題文の日本語の文章理解度と、文章の中から、相手の気持ちや意図を読み取りながら意思疎通を図ることが苦手であるという自閉スペクトラムの特性やそのことが原因で自閉スペクトラム症の人が生きづらさを抱えているということを読解できていることを確認するための設問である。それに対して、問2では、問題文を踏まえて自分の考えを的確に日本語で表現できるかどうかをみる小論文を課した。 2. 採点の観点 問1 (1)誤字・脱字がないか (2)解答例に記述された内容がどの程度含まれているか (3)日本語として適切な表現かどうか(語句や文法) 解答例:私たちは、言葉だけではなく、相手の表情や仕草から相手の気持ちや意図を読み取りながら意思疎通をしている。ASD の人は、人の顔を見分けることが難しく、相手の視線や仕草、口調、表情といった複雑な変化への認識と対応が難しい。それが理由で、表情や仕草から相手の気持ちや意図を読み取りながら意思疎通するという非言語的なコミュニケーションが難しいため、「空気を読めない」という生きづらさを抱えている。(193字) 問2 (1)誤字・脱字がないか (2)日本語として適切な表現かどうか(語句や文法) (3)記述の長さが十分かどうか (4)論述の論理性、論旨の明確性 (5)内容の豊かさ、個性、独自性 解答例: ロボットを用いたASDのある人のことばの発達、社会性やコミュニケーションを支援する取り組みについて、私は賛成である。その理由は、ロボットには従来の人間が行う支援では難しい多様な個人差という側面にアプローチできると考えたためである。これまでの支援を行う課題として、ASDのある人の感覚情報の処理や認識には個人差が大きいいため、一人ひとりにあった支援方法が異なる点がある。特にASDのある人が苦手とするのは人間の複雑な表変化の認識であり、人の顔にも個人差があるため、実際に接する人が100人いれば、ASDのある人は100通りの表情変化を読み取らなければならない。これはASDのある人の円滑なコミュニケーションにとって非常に大変な処理であると思われる。一方でロボットのような機械を用いると、ロボットのモニターなどに映し出される表情の変化を様々な操作することができ、ASDのある人が理解できる難易度にあわせて、ロボットから表情を表出することが可能だと思う。ASDのある人の個

	人差が大きく、支援方法が一人ひとり異なるという点についても、近年の機械学習の技術を応用することによって、一人ひとりへの支援方法の最適化が行えるかもしれない。それゆえに、ロボットを用いることはASDのある人に適切な表情変化を示し、ASDのある人の個別性にも対応できるという、従来の人間が行う支援では難しい多様な支援が期待できると考えた。(599文字)
--	---